



CHAPTER 1

概要

この章では、Cisco Data Center Network Management (DCNM) を使用した Nexus 環境の監視および管理に使用できるシステム管理機能を取り上げます。

この章の内容は、次のとおりです。

- 「イベント」 (P.1-1)
- 「インベントリ」 (P.1-1)
- 「仮想スイッチ」 (P.1-2)
- 「SPAN」 (P.1-2)
- 「LLDP」 (P.1-2)
- 「デバイス オペレーティング システムの管理」 (P.1-2)
- 「コンフィギュレーション変更管理」 (P.1-2)
- 「コンフィギュレーション配信管理」 (P.1-2)

イベント

Cisco DCNM のイベント ブラウザと機能固有の [Events] タブを使用すると、最近のステータス イベントを表示および管理できます。イベントには、Cisco DCNM が管理対象デバイスから取得したステータスに関連するシステム メッセージと Cisco DCNM サーバで生成されたメッセージがあります。

インベントリ

インベントリ機能には、選択した管理対象デバイスと Cisco Nexus 7000 シリーズ スイッチの電力消費量で構成されるコンポーネントの情報が表示されます。詳細については、[第 3 章「インベントリの使用」](#)を参照してください。

さらに、インベントリ機能では、Cisco Nexus 1000V シリーズ スイッチなどの仮想スイッチの基本システム パラメータを設定できます。詳細については、[第 4 章「仮想スイッチの管理」](#)を参照してください。

仮想スイッチ

Cisco DCNM では、Cisco Nexus 1000V シリーズ スイッチなどの仮想スイッチをネットワーク内で管理したり、その情報を表示したりできます。仮想スイッチの管理には、ドメインやサーバ接続の設定などがあります。

SPAN

Switched Port Analyzer (SPAN; スイッチドポートアナライザ) 機能では、Cisco NX-OS デバイスの送信元ポート間のトラフィックを分析します。この分析は、外部のアナライザを SPAN セッショントラフィックに添付して宛先ポートに送信して行われます。SPAN セクションで監視される送信元ポートと宛先ポートは、ローカル デバイス上で設定できます。

LLDP

リンク層検出プロトコル (LLDP) はベンダーに依存しない、単一方向のデバイス ディスカバリ プロトコルです。このプロトコルでは、ネットワーク上の他のデバイスにネットワーク デバイスから固有の情報をアドバタイズできます。このプロトコルはデータリンク層で動作するため、異なるネットワーク層プロトコルが稼働する 2 つのシステムで互いの情報を学習できます。LLDP はグローバルにイネーブルにすることも、インターフェイスごとにイネーブルにすることもできます。

デバイス オペレーティング システムの管理

デバイス OS 管理機能では、Cisco DCNM の管理対象デバイスにインストールされているソフトウェア イメージを管理します。この機能を使用すると、ソフトウェア イメージの詳細を表示したり、1 つ以上の管理対象デバイスに対するソフトウェアのインストール ジョブを作成および管理したり、ソフトウェア イメージを転送してデバイス コンフィギュレーションのバックアップを作成するようにファイル サーバを設定したりできます。

コンフィギュレーション変更管理

コンフィギュレーション変更管理機能では、管理対象デバイスからのコンフィギュレーションのアーカイブを保存します。この機能を使用すると、アーカイブに保存されているコンフィギュレーションを表示および比較したり、管理対象デバイスで実行コンフィギュレーションを、デバイスで使用可能な任意のアーカイブ済みコンフィギュレーション バージョンにロールバックしたりできます。

コンフィギュレーション配信管理

コンフィギュレーション配信管理機能では、コンフィギュレーション配信ジョブを作成およびスケジューリング設定できます。各ジョブは 1 台以上のデバイスにデバイス コンフィギュレーション コマンドを送信できます。